

事業所名

学童クラブそよ風2

支援プログラム

作成日

2024 年

10 月

1 日

法人（事業所）理念	社会福祉法人ひまわり福祉会が設置する学童クラブそよ風が行う児童福祉法（に基づく指定放課後等デイサービスの事業の適正な運営を確保するために必要な人員及び運営管理に関する事項を定め、事業の円滑な運営管理を図るとともに、障害児及び通所給付決定保護者に対し、適切な指定放課後等デイサービスを提供することを目的とする。						
支援方針	集団形成を大切にし、集団生活においてコミュニケーション能力など必要な社会で必要なスキルの習得を支援していく。健全な発達のための体づくりを大切にし、散歩など運動面でも支援を行っていく。集団活動の中で、規則的な生活、基本的な生活習慣の確立、生活習慣の質的な向上を支援していく。生活習慣の子どもたちが集団の中で学校や家庭とも違う第3の居場所作りとして、楽しいを大切に余暇支援を行っていく。						
営業時間	平日	10 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり
営業時間	学校休業日	8 時	30 分から	15 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	健康状態の維持・改善。生活リズムや生活習慣の形成。基本的な生活習慣の向上。 排泄に関して自立がまだの子どもに対しては、児童の状況に合わせて、時間排泄や活動の合間ごとの声かけなど個別に対応する。食事に関しては、昼食がある場合には昼食を利用して食育や食事の姿勢及び自助具の調整などを行う。その他の生活においても集団生活の形成を基本に集団の中で自分ができることは自分で行うことを大切に生活習慣の質的向上を支援していく。利用中に体調の変化ある場合には適切な対処（医療機関の受診、保護者への状況報告等）を行う。その際、緊急連絡カードを活用するとともに、持病等であらかじめ予測されている事態には保護者と対処方法を決めておく。（個別支援計画に記載） 具体的なプログラムとしては、散歩やクッキング、掃除など					
	運動・感覚	健全な発達には健全な体作りを大切に遊びを中心にして体を動かすこと支援していく。 一人一人の子どもを適切に評価し、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢の保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化、その子どもの体の発達に合わせた支援を行う。戸外での活動、教室での筋トレ、散歩や公園遊び等で、体力の向上や身体移動能力の向上、自然に触れ合うことで五感を刺激し、好奇心や豊かな感受性の醸成を支援をする。 工作、クッキング、戸外活動など遊びの中で、保有する感覚（視覚、聴覚、触覚等）を十分活用できるように支援を行う。感覚や認知の特性（感覚鈍麻等）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の提案及び支援を行う。 姿勢保持と運動動作の補助的手段が必要な場合は、家庭や学校、医療機関を連携を取りながら必要な支援、用具の提供などを行う。 具体的なプログラムとしては、戸外での活動、筋トレ、クッキング、工作など					
	認知・行動	視覚、聴覚、触覚等、感覚を十分に活用した活動を取り入れる。製作活動、身体遊びなどを通して認知機能の発達を促す。また散歩などで環境の変化を自然に感じ、環境から情報を取得する力、そこから必要なメッセージを選択する力、それを言葉や動作に繋げる力など認知と行動の繋がりも大切にしていく。物の機能や属性、形、音が変化することを集団の中で、たくさんの友だちのたくさんの遊び道具の工夫の中で自然に感じ取れる環境を作っていく。 数量、大小、形や色のちがいがい等の概念の獲得においては、集団生活において、食事や衣服の着脱、様々な活動の中で声かけ支援等で児童自身の気づきに繋がる支援を行っていく。 認知の偏りに関しては、一人一人の児童の特性を十分に把握し、環境調整や支援者の関わり方の統一や調整を行う。保護者とも情報を共有し、偏りによる特性（こだわりや偏食等）に家庭と連携を取りながら対応していく。 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から来る行動障害に対して事前に環境調整など予防策を講じ、適応行動の獲得に向けた適切な支援を行う。 具体的なプログラムとしては、様々な種類のブロックを自ら選択し、立体の造形物を作る創作活動や手遊びや音楽を使って五感を刺激する活動、クッキングでの工程を理解し先を見通す力を養うなど					
	言語 コミュニケーション	言語の形成と活用を支援する。絵カード、指差しや様々なサインを活用しながら具体的な事物、体験などと言葉の結びつけを支援者の声かけ支援などで体系的な言語の習得、自発的な発声支援を行っていく。 発達段階に応じて、話し言葉の発展、文字や記号等の活用、単語の組み合わせ、助詞等活用など伝えるため手段を向上させる支援行っていく。 集団との関わりの中で自分の考えを伝えたり、相手の気持ちを理解する力を相互作用としてコミュニケーション能力が向上できるように支援していく。 絵本の読み聞かせなど様々な場面で読み書きの能力の向上をはかり、掲示物、記号、絵カードなど様々な伝達手段も活用しながら、複合的に言語習得を支援し、コミュニケーション能力を向上させていく。 具体的には、伝えあう、協力しあう必要のある集団遊び、児童自身が放デイでの出来事を保護者に伝えるなど					

	人間関係 社会性	<p>集団活動の中で、子どもの特性に応じて環境調整、関わり方の提案などを行いながら自発的な集団参加を支援する。その中でルールや関わり方を学び、人間関係の形成能力の向上を目指し支援していく。</p> <p>一人遊びや集団遊びの選択、感覚遊びから象徴遊びへの発展、より楽しく余暇の過ごす方法を自ら選択し、環境調整していく力をつけていく。集団遊びに関しては、模倣行動の支援、並行遊び、支援者を介した連合遊び、役割、ルールのある遊びなどスモールステップで遊びを発展していけるように支援者が仲介する、集団形成の環境調整などを支援をしていく。</p> <p>具体的なプログラムとしては、クッキングや掃除、公共施設へのおでかけなど</p>	
	家族支援	<p>家庭でも自立した生活を送れるように家庭で生活を意識した生活習慣の質的向上の支援。面談や送迎時の報告などを通じて家族の相談等に応じる。送迎、延長支援、日中一時支援など様々な支援を通じて家庭の負担軽減、就労等の支援を行う。</p>	<p>移行支援</p> <p>将来のライフステージの移行、主に卒業して社会に出ていった時の一人で行えることを増やす、他者への関わり方、公共施設での振る舞いなど本児、家族が安心して社会で生活していくことを意識した支援。</p> <p>入所時、児童発達支援事業所、保育所と連携した引継ぎ。各放課後等デイサービス、各就労先との連携。そのために自立支援協議会や各支援団体への参画および積極的な協力。</p>
	地域支援・地域連携	<p>公共施設の積極的な利用。学校、和歌山県及び各市町村の福祉担当部署、児童相談所との連携。自立支援協議会への参画。福祉事業への積極的支援と助言。</p>	<p>職員の質の向上</p> <p>職員会議における研修・内部研修・外部研修への職員の派遣。警察・消防署・病院・セキュリティー会社等による非常時・災害時・救急時における対応方法の研修など</p>
	主な行事等	<p>夏祭り・ハロウィンパーティー・クリスマスパーティーなどの季節行事。学校休業日等を利用した遠出（遠足）。各月のお誕生日会。火災及び地震津波避難訓練</p>	